

会員のひろば

題字：森 和恵

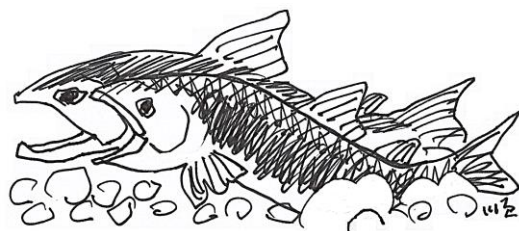
◇「『was born』の授業」を読んで思い出しています。

「生まれた」を英語では「was born」と表現することは中学生で学びました。ちょっと変わった「受動態」表現をそのまま訳すと「生まれされた」となりますから、英語の授業の中で、生命が親から与えられるものと認識させられるわけです。自ら生まれることはないから「生まれる」の動詞は存在しないのだという英語の合理性に納得するばかりでした。高校でこの詩に出会ったかどうかの記憶はありません。

高校生の頃、鮭の産卵をテレビでみて生命の営みの真実に触れたことを思い出します。紅鮭が大群をなして太平洋岸バンクーバーの河口からカナダの大河フレイザーを1000kmも遡って産卵する映像をみたのです。夏の終わりに淡水に入った鮭はえさを食わずに急流や段差を乗り越え、最上流の体高を下回る浅瀬に到達して産卵受精して息絶えます。孵化した幼魚は次の年の春に川を下り海に出て成長して4年後に故郷の川を目指し、親と同じ運命をたどります。まさに詩に登場する「目まぐるしく繰り返される生き死に」です。鮭の命は産卵の

ために費やされるという事実に胸をつたれました。

難しいテーマについてわかりやすい言葉で問いかけながらも、詩の細部に分け入るように語りかける渡辺さんの授業の展開を読みながら思いました。もし私が生徒だったら先生の問いの一つひとつに答えられただろうか。鮭のひたむきな生き方に感動する一方で、病気がちで高校卒業も危うかった私が「生まれたい」命を生かすために、鮭のような明確な方向性をもって流れを遡ることはとても難しいことでしたから。



次号の展開を楽しみにしています。

(高崎市 倉林順一)

◇「旅するキューシーヌ」のビルマ汁のお話がとても興味深かったです。亡くなった父が益子の人でしたが、私が益子に行っていた時は、ビルマ汁が益子の郷土料理だということを知りませんでした。キューシーヌを読んで初めて知りました。いつか父のお墓参りのあとに食べられる機会があると思います。

文字に色があって、新着情報や日程がとても見やすかったです。運営委員会だよりの私の文

をきれいに載せてくださってありがとうございます。

(高崎市 二口孝絵)

◇残暑お見舞い申し上げます。如何おすごしでしょうか。暦の上とはいえ、こんなに暑いのに秋が立つとはなにごとかと腹が立ちます。不眠気味の明け方、左記のような愚作が浮かびました。プーチンとプードル二文字でへだたれど愛される差は天と地ほどに
太陽は五〇億年後に消失するとか。我欲の強い独裁者はいつまで人民を苦しめ続けるのでしょうか。考えると気が遠くなります。おっと、これは熱中症なのか？

(高崎市 金井秀行)

◇いつも多くの学びをありがとうございます。多くの記事を読みながら茨木のり子さんの詩が浮かんできます。

ひとりの人間の真摯な仕事は
おもいもかけない遠いところで
小さな小さな渦巻をつくる
それは風に運ばれる種子よりも自由に
すきな進路をとり
すきなところに花を咲かせる

たくさんの方が咲きますように。

(前橋市 朴順子)